

「歴史の道」を散策。 「風土記の丘」を探検。

いま、県教育委員会は、くまもとの文化財を守り、広く活用するために、文化財保存整備事業に取り組んでいます。その代表的なものに「歴史の道」、「風土記の丘」があります。

小学生が参勤交代の道を 体験徒歩旅行。

今年の夏、七十五名の小学生が大分の野津原から熊本城まで、参勤交代の道といわれた一四キロの道のりを七日間かけて踏破しました。毎朝四時起床、五時から歩き始めるというハードな旅でしたが、踏破した子供たちの感想では、「石だたみを歩くのは初めてだったし、昔、大名行列が歩いたという道を自分の足で歩いているというのはうれしかった。」花田千敬クン」と好評のようでした。

この企画は七年前、熊本市大江に住む阿南誠士さんが、「体力づくりに熊本にゆかりのある参勤交代の道を歩いてみては」という提案で始まり、毎年続けられているもので、当時、豊後街道

については、部分的に郷土史家たちが調べていたものの、全コースに関する資料がなく、本番を前に、コースの下調べに苦労しました。四年前からは、参加する小学生たちが歴史に興味を持ち始め、道中、宿泊する公民館やお寺で、郷土史家や住職にその土地の話や聞くことが多くなりました。公民館の中には、毎年、子供たちの来るのを楽しみに待っているところもあり、いろいろな人々とふれ合えるのもこの企画の良さです。阿南さんの話によれば、わずか七年前に



肥後国絵図には、当時の状況が詳細に記されている



「歴史の道」を整備・ 保存・活用しよう。

私たちは、このような歴史の道を保存するだけでなく、活用するためにも整備しなければなりません。その動きの一つとして、産山村では今年十二月から、村の文化財である大利の石畳（延長八十メートル、幅三メートル）の修復が始まり、荒廃した石畳が昔の姿に蘇ることになっていきます。

全国でもユニークな くまもと「風土記の丘」。

本県は古墳が多いことで知られています。全国約三百の装飾古墳のうち過半数が県内にあるといわれます。この古墳群を保存し、周辺環境の整備も同時に進めようとするのが、文化庁の補助を受けた「風土記の丘」構想です。

本県では、昭和五十四年から調査に着手し、翌五十五年度に菊池川流

域、そのうちでも特に山鹿、鹿央、菊水の三地区を核とした風土記の丘を設けることに決まりました。

「風土記の丘」はすでに全国に十か所建設されていますが、一地区で構成されているものが多いのに対し、本県では菊池川を有機的に活用してこの特色ある三つの地区を結合するという極めてユニークな構想になっています。

この三地区にはそれぞれ特色があります。山鹿地区には、県内に多い装飾古墳の中でも特に有名なチブサン古墳、鍋田横穴古墳などが集中しています。鹿央地区には、岩原古墳群は八基の古墳で構成され、その中心となる双子塚古墳は、今でも前方後円墳の原型をとどめ、九州一の美しさを誇っています。菊水地区にある江田船山古墳は、数々の金製品とともに銘文太刀を出土しています。特に太刀に刻まれた七十五文字の銘文は、日本最古の文字であり、貴重な考古資料となっています。

江戸時代すでに、 熊本は九州の 交通の要 だった。

比べてさえ、昔の道がなくなったり、景観が悪くなった場所も増えてきている。一方、阿蘇町、石の茶庭、石畳などには、今でも往時の情緒が残されていて、一見の価値があるということだ。日焼けして真黒になった子供たちは、当時の人々の苦勞を肌で知るといふ生きた勉強をして、熊本城にゴールインしました。

菊水「石人の丘」を手はじめに 大古墳公園へ。

昭和五十六年度に基本構想、五十七年度に実施計画策定、五十八年度からは用地買収に入っています。五十九年度には、菊水地区を手はじめに、県内から出土した石人、石製品の複製を展示する「石人の丘」（江田川沿いの丘陵地）の整備に着手しており、来年四月には公開の運びとなっています。将来の計画としては、付近を通る豊前街道を生かしたり、菊池川の川下りや山鹿地区と菊水地区を結んだり、サイクリングロードや山鹿地区と鹿央地区を結ぶといったアイデアも出ています。全体計画は総面積六十八万平方メートル。七か年計画で完成の予定です。昭和六十四年には、楽しみながら歴史が学べる大古墳公園が生まれることとしてい

（教育庁 文化課）



「風土記の丘」菊水地区完成予想図

県内で出土した石人の複製品をはじめ石製品が17体展示される